

「召命塾」

主任司祭 晴佐久昌英

司祭職ほど夢のある生き方はないと思う。神に呼ばれ、キリストとひとつになって、神の国のために働く司祭職ほど夢のある道は、ほかにないと思う。もちろんそれは、まずはキリスト者という生き方において言えることではあるけれども、そのキリスト者をひとつにし、教え導き、秘蹟で力づけて世に送り出す司祭職のすばらしさは、ほかに比べるものがないと思う。

いかなる学問よりも優れた、神の知恵をこそ生きる司祭。いかなる軍勢力よりも力ある、神の力をこそ身に帯びる司祭。いかなる政治よりも正しい、神のことばをこそ語る司祭。いかなる財産よりも値打ちある、神の富をこそ分かつ司祭。いかなる芸術よりも美しい、神のわざをこそ賛美する司祭。すなわち、全身この世にあり、全身この世の人間として生きながらも、天に所属し、神の僕となって神の教会に奉仕する司祭職こそ、一度の人生を捧げるに値する魅力を持っているのではないだろうか。

それはもちろん安易な道ではないにせよ、決して困難な道でも、重いくびきでもない。むしろ、いつも喜び、絶えず祈り、どんなことにも感謝できる、気持ちのいいほど単純な道である。人間的な意味では欠点が多く、様々な限界を抱え、時に己が無力さに天を仰ぐしかないことがあるとうも、そんな自分を呼んだ神の御心のみに信頼して生きていけるという、まったくストレスのない明快な道でもある。

昨年秋、高円寺教会において、司祭職を考える青年たちのために「召命塾」を開いた。これは、司祭職について知りたいという青年が身近に増え、対応を迫られて生まれたチームであり、ともに祈り、学び、語り合い、支え合っている。現在、メンバーは十名で、うち四名はすでに司祭職を決心して志願しており、うち一名は試験に合格し、この春、神学校に入学して神学生になる。

ひとつの教会にそのような青年が多数いることに驚く人も多いが、司祭職の真の魅力をはっきりと示すならば、道を探す青年たちがそれを求めるのはむしろ当然のことではないだろうか。召命塾こそ、本物に憧れ、本物に奉仕したいと願う、人類の夢そのものなのである。